

# 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

## ・北海道花き振興協議会（北海道）

### 1 協議会構成団体

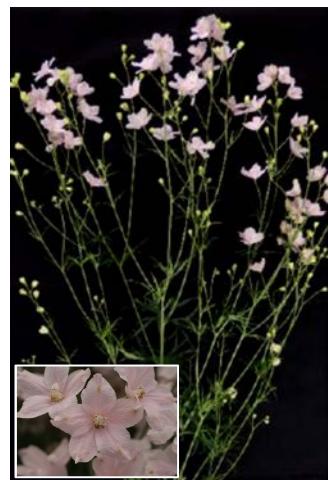
北海道農政部、北海道花き生産連合会、北海道鉢花生産組合、北海道ばら研究会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道農業協同組合中央会、株札幌花き地方卸売市場、日本花き卸売市場協会北海道支所、札幌花き園芸株、はまなす花き株、北海道植物株、北海道生花商協同組合

### 2 主な取組

#### (1) 生産技術向上交流支援

##### ①取組内容

- ・愛媛県育成デルフィニウム「さくらひめ」を、北海道と愛媛県間のリレー出荷による周年安定供給（愛媛県：冬春季、北海道：夏秋季）を推進するため、道内における栽培マニュアルを作成した。
- ・栽培マニュアルは、品種特性、作型、品質アップの技術（夜冷育苗、照明技術）などを掲載し、栽培産地の生産者に配布した。
- ・「さくらひめ」のブランド化（マーケットへの安定供給、価格の高位平準化）を目指し、道内産地間の意見交換や愛媛県との情報共有を実施した。



愛媛県育成品種  
「さくらひめ」

##### ②取組による成果

- ・道内栽培における品質向上、安定生産に向けた活用が見込まれる。
  - ・道内と暖地とのリレー出荷のモデルケースとしたい。
- ③今後の取組の予定
- ・周年安定供給に向け、新たな作型で調査を行い、栽培マニュアルの充実を図る。
  - ・研究、行政、生産者がチームで愛媛県の圃場等を訪問し、生産物のブランド化に向けて意見交換を行う。

#### (2) 花文化の展示会

##### ①取組内容

- ・秀品花きの展示、場面を設定したフラワーアレンジメントの展示（20代の男子、彼女の誕生日に贈る花 2,500 円など）、道産花きの主要品目展示で道産花きの魅力を発信する「北海道 BEST FLOWER COLLECTION」を開催した。（札幌駅前通地下歩行空間 6月 20 日～21 日）



##### ②取組による成果

- ・消費者に対して、道産花きの品質の良さ、種類の豊富さなど道産の花の PR ができ、また、具体的なテーマを設定したアレンジメントの展示により、普段、花を購入しない消費者に興味を持ってもらえた。



##### ③今後の取組の予定

- ・暮らしの中の花の活用方法など展示内容を拡充して取組を実施する。

会場の様子→

(5,500 人が来場)

## 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

### ・青森県花のくにづくり推進協議会（青森県）

### ・協議会構成団体

J A 全農あおもり県本部、(株)青森花卉等県内 5 花き市場、花キューピット協同組合青森支部、フジテレビフラワーネット加盟店会青森支部、日本フラワーデザイナー協会青森県支部等花装飾 3 団体、(地独) 青森県産業技術センター農林総合研究所、青森市農業指導センター、八戸市農業経営振興センター、青森県農林水産部農産園芸課

### ・主な取組

#### (1) フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

##### ①取組内容

- ・高校生によるフラワーショー&フラワーコンテストの開催（平成 26 年 7 月 25 日）

県内農業高校生が自作のブーケを披露するフラワーショーを開催し、来場者へ県産花きの PR と暮らしに花を取り入れる提案を行った。

- ・弘前市場祭りでのフラワーショーの開催（11 月 30 日）

「弘前市場祭り」会場内で、県内の花装飾技術取得者による季節の花を使った大型のフラワーアレンジメント制作過程を披露し、来場者へ最新の花の紹介と装飾



##### ②取組による成果

- ・生活に気軽に花を取り入れることが PR でき、花きの消費拡大が期待できる。
- ・高校生へ花きを装飾する楽しみが理解され、今後花きへの興味が更に深まることが期待できる。また、引率の教諭からも授業で花きを取り入れる重要性が理解された。

##### ③今後の取組の予定

- ・平成 27 年度も引き続き高校生が参加するフラワーショーを実施する。

## 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

### (2) 学校・福祉施設等での花育体験推進

#### ①取組内容

- ・小・中学校での授業時間や老人福祉施設などで花育を行い、花の流通や家庭で花を気軽に飾る方法等を花き市場職員が説明した後、フラワーアレンジ教室を行った。

花壇づくり教室	1回（幼稚園生対象）
フラワーアレンジメント教室	13回（小中高校生、小中学校 PTA、老人福祉施設）
<u>寄せ植え教室</u>	<u>1回（福祉施設）</u>
合 計	15回（参加人数 520人）

#### ②取組による成果

- ・小学生以下では花を扱うことが楽しく、家族に喜ばれることで花きへの興味が高まった。
- ・中学・高校生では花きを扱うことに躊躇する場面が時々みられたが、体験終了時には花きについての理解が深まった。
- ・PTA会員は若い父母が多く、家庭での花の管理の方法や気軽に花を家庭で飾る方法が理解され、もっと花を飾る機会を増やしたいとの意見が多かった。
- ・老人福祉施設では、アレンジメントを作成することで、コミュニケーションが図られ、施設からはリハビリテーション効果があったと好評であった。



幼稚園での花育活動



フラワーアレンジメント教室

#### ③今後の取組の予定

- ・平成 27 年度も引き続き花育活動を展開する。
- ・花壇づくり教室は、花に触れる時間が長く、低予算で効果的な花育ができるため、26 年度以上に実施する。

# 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

## ・いわて花と緑の普及協議会（岩手県）

### 1 協議会構成団体

岩手県、八幡平市、全国農業協同組合連合会岩手県本部、株式会社盛岡生花  
地方卸売市場、岩手県花卉商組合、公益社団法人日本フラワーデザイナー協  
会岩手県支部

### 2 主な取組

#### (1) フラワーコンテスト、花文化展示会、シンポジウムの開催

##### ①取組内容

・りんどうを中心とした県産花きの新たな需要拡大に向けて、消費者に岩手  
の花を広く知ってもらい、花と親しむ場を提供することを目的に、大型商業  
施設を会場として、「いわて花の日フェスタ 2014～花とふれあう 3 days～」  
を平成 26 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）に開催した。

ア 花き品評会「いわてフラワーコンテスト」

イ りんどうを使ったブライダルブーケのアレンジメントデモンストレ  
ーション

ウ りんどうを使ったアレンジメントコンテスト

エ 岩手で生産されている花を紹介したリーフレットの配布



花き品評会



アレンジメントコンテスト

##### ②取組による成果、参加者の反応

- ・花き品評会は前年まで、試験研究機関を会場にしていたので、来場者は花  
や農業に興味のある方に限られていた。大型商業施設で開催したことにより、  
花や農業に興味のあるなしに関わらず、消費者など多くの方が来場し、  
県内で多様な花が生産されていることをアピールできた。
- ・来場者にアンケートを取ったところ、今回のイベントを見てりんどうを普  
段家庭で使いたいと思ったと回答した者が 96%あり、仏花だけないりん  
どうの魅力をアピールできた。

##### ③今後の課題、取組の予定

- ・平成 27 年もフェスタを開催し、翌年に開催される国体の PR も兼ね、県産  
花きを広く一般の消費者等に周知する。

# 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

## ・宮城県花と緑普及促進協議会（宮城县）

### 1 協議会構成団体

宮城県農林水産部農産園芸環境課、仙台市経済局農林部、仙台市建設局百年の杜推進課、全国農業協同組合連合会宮城県本部、宮城県園芸協会、宮城県花卉商業協同組合、仙台中央卸売市場花卉仲卸協同組合、仙台生花株式会社、株式会社仙花、株式会社石巻花卉園芸

### 2 主な取組

#### （1）花文化展示：国連防災世界会議

##### ①取組内容

- ・平成 27 年 3 月に仙台市内で開催された国連防災世界会議の本体会議場を県産花きで装飾し、国内外から来場したお客様を県産花きで迎え、県産花きの魅力を P R した。



##### ②取組による成果、参加者の反応

- ・会議場への入場ゲートとなっている地下鉄東西線「国際センター駅」駅舎 2 階にフラワーオブジェを設置するとともに、駅舎から本体会議場をつなぐエントランス広場の花壇にフラワードームの設置や植栽、ウェルカムボードの設置を行った。

本体会議場へは 187 か国、6,500 名以上の参加者と各国報道関係者等の来場があったが、多くの来場者がオブジェや花壇前で記念写真を撮影したり、立ち止まって眺めており、県産花きを魅力を P R することが出来た。

##### ③今後の課題、取組の予定

- ・平成 27 年度は、多くの利用者がある公共施設において時節の歳時に合わせた県産花きを展示し、花文化や花のある暮らしの紹介を行う予定。



#### （2）学校・福祉施設等での花育体験推進

##### ①取組内容

- ・県内の小学校 19 校において、フラワーアレンジメント制作や寄せ植え、花壇植栽の花育教室を実施し、講師の派遣と花材・資材の提供を行った。また、花育教室の実施事例集を作成(100 部)し、  
関係機関、実施小学校等に配布した。



##### ②取組による成果、参加者の反応

- ・想定以上の実施応募校があり、花育に対する関心は高かった。参加児童は花に触れる楽しさを感じるとともに、花を贈る喜び、大切に管理する気持ちを持った様子であった。同時に各地域における花きの生産状況の説明も行い、子ども達の県の花き生産に関する理解が深まった。

##### ③今後の取組の予定

- ・27 年度は地域住民と一体になった活動や、年間を通じた花壇管理、バスツアーなど新たな取組を行う。

# 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

## ・秋田県花きイノベーション推進振興協議会（秋田県）

### 1 協議会構成団体

秋田県農林水産部、秋田生花株式会社、全国農業協同組合秋田県本部、秋田県花卉小売商業協同組合、秋田県花き生産者連絡協議会、秋田県花いっぱい運動の会、秋田県農業会議、秋田県農業試験場、秋田県花き種苗センター

### 2 主な取組

#### (1) 海外現地調査の実施

##### ① 取組内容

当県オリジナル品種である「NAMAHAGE（ナマハゲ）ダリア」を含む県産ダリアの輸出可能性を探るため、米国ハワイ州（10/20～23）、中国香港特別行政区（11/27～29）での輸送後時の品質調査、展示会を通してのブライダル業やデザイナーへのPRを実施した。



##### ② 取組による成果

輸送時の荷傷みが見られる品種が一部見られ、日持ちや切り前の課題が残るもの、来場者の反響が大きかったことから、輸出の可能性は大いにあると思われた。ネックとなる価格についても、富裕層への売り込みで商機が見込まれる。

##### ③ 今後の課題、取組の予定

平成 27 年度は米国ハワイ州において、秋田県をトータルでプロデュースした形でダリア結婚式イベントを計画している。また日持ちや切り前などの調査についても、引き続き実施する予定。

#### (2) フラワーコンテスト、花文化の展示会等の開催

##### ① 取組内容

花きの生産、流通、販売、消費実需者等の関係者が一体となって県民への花きのPR、消費拡大のため開催してきた第 35 回秋田県花の祭典（11/15～16）において、新たな企画としてブライダルブーケコンテスト（14 点）を実施した。



##### ② 取組による成果

県民、消費者に対して花きのPRとなった他、小売店にとっても自らの技術をPRする場となった。また様々なブーケとウエディングドレスのコラボレーションにより、来場者を楽しませることができた。

##### ③ 今後の課題、取組の予定

秋田県産花きをブーケに使用しPRすることで、更なる消費拡大を図る目的で、平成 27 年度も引き続き実施する。

## 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

### ・山形県花き振興協議会（山形県）

#### ・協議会構成団体

山形県農林水産部、山形県 JA 園芸振興協議会花き部会、庄内花き生産組織連絡協議会、日本ばら切花協議会山形県支部、山形県鉢物協議会、山形県花木生産者協議会、山形県りんどう生産協議会、山形県トルコギキョウ研究会、山形県生花地方卸売市場、山形生花商組合連合会

#### ・主な取組

##### （1）物流の効率化の検討・実証

###### ①取組内容

- ・県内主要花きの需要に即した荷姿や出荷規格の市場調査を行った。（平成 26 年 8 ～ 9 月。株式会社静岡県花き園芸卸売市場、株式会社大田花き、株式会社なにわ花いちば）
- ・本県ダリアは、栽培面積が拡大傾向にあり全国に向けて出荷されているが、観賞期間が短いことが課題となっている。そのため、切り花の日持ち向上技術について研修を実施した（平成 26 年 8 月 28 日開催、県内の生産者、流通関係者、生花店、全農・農協、一般参加者等約 90 名参加）。

###### ②取組による成果、参加者の反応

- ・他産地の荷姿、状態のよい荷姿について市場担当者と意見交換を行い、現在の出荷方法に対する課題について確認した。
- ・花き消費が低迷する中、花の日持ちは消費者顧客満足度を高める一つの要素であり、花き関係者が花の日持ちや鮮度に対する消費者の要求に応えるため知識を学んだ。

###### ③今後の課題、取組の予定

- ・花傷みの少ない出荷方法や出荷資材の試作・実証を行い、品質管理マニュアルを作成予定。
- ・併せ、機能的な出荷資材でクレームの少ない先進地（ダリア産地）調査を行い、出荷規格の統一に向けた検討を行う予定。

##### （2）学校・福祉施設等での花育体験推進

【写真】花育教室（米沢市東部小学校）

###### ①取組内容

- ・小学生（4 年生 5 クラス 107 名）を対象に、地元の花きを中心に季節の花材を使用したフラワーアレンジメント制作による花育を実施。（平成 27 年 2 月 17 日）後日、このアレンジメントを『2 分の 1 成人式（小学校 4 学年 10 歳の節目）』に親御さんに贈呈した。



###### ②取組による成果

- ・地域の花きについての知識を学び、自らアレンジメントを制作することで花きを身近に感じることができた、また、それを両親に贈ることで家庭の中で花を楽しむきっかけとなった。



###### ③今後の取組の予定

- ・平成 27 年度も引き続き、小学生（4 年生）を対象に同様の取組みを行う予定。

## 平成 26 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

### ・福島県花き振興協議会（福島県）

### ・協議会構成団体

株式会社福島花き、株式会社あいづ園芸（卸売業者）、福島花卉商業協同組合（花き小売業者組織）、福島県鉢花生産者協議会、JA全農福島園芸部（生産者組織等）、福島県農林水産部園芸課（行政）

### ・主な取組

#### （1）花育事業

##### ①取組内容

目的：児童の成長段階において、花と緑に親しみ、育てる機会を提供し、やさしさや美しさ等を感じる心の豊かさを育むとともに、豊かな人間性を育む一助となることを目的に開催。（全 3 回）

対象者：第 1 回 平成 26 年 7 月 12 日 二本松市立二本松南小学校 5 年生 約 80 名  
第 2 回 平成 26 年 11 月 20 日 伊達市立太田小学校 6 年生 32 名  
第 3 回 平成 27 年 2 月 5 日 福島県立盲学校・福島県立聾学校  
生徒等 43 名

##### ②取組による成果、参加者の反応

取組を通して、子供たちは花に親しみ、楽しくながら自分だけのフラワーアレンジメント作品を作り上げていた。また、講師と交流を深めながら、花に関わる様々な事柄（花の知識だけでなく花関連の仕事について等）を学ぶ機会となった。どの子供たちにとっても、作品を通して自分を表現する楽しさを存分に味わっていた。



写真 1 聾学校福島分校の  
子供たちとその作品

##### ③今後の課題、取組の予定

さらに多くの子供たちが花に触れる機会を持てるよう、教育機関とも連携を図りながら、実施回数及び取組校数を増加する。

#### （2）福島県鉢花品評会

##### ①取組内容

・県産鉢物の生産振興と PR 推進、県内鉢物生産者の鉢花栽培技術の向上を目的に開催（平成 26 年 11 月 29 日～30 日開催。158 点の出品があり、一般公開では約 300 人が観覧に訪れた。）。



##### ②取組による成果

・一般公開では多数の一般消費者が観覧に訪れ、県産鉢花 PR の良い機会となった。また生産者にとっては技術研鑽の場となるとともに、消費者との交流や生産者同士の情報交換の場となつた。

写真 2 寄せ植え体験のようす

##### ③今後の課題

・一般消費者がより参加しやすく、県産鉢花の理解を深めることができるようなイベントの企画が必要である。